

第 12 回全日本中学校チアリーディング選手権大会

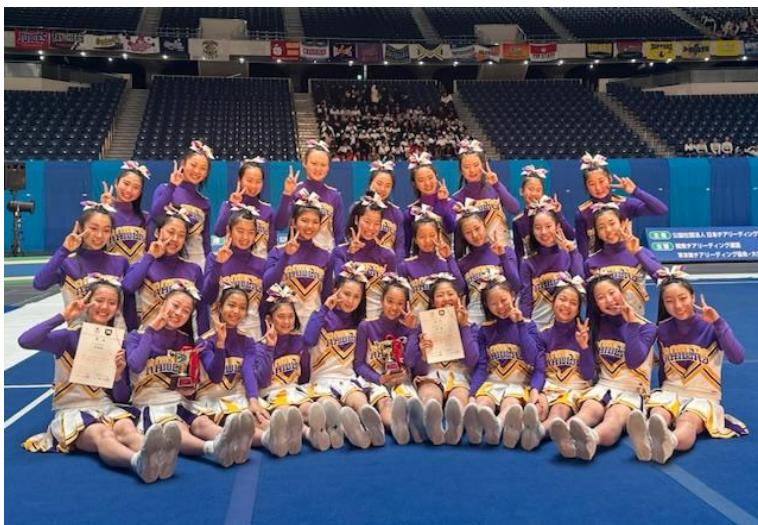
～箕面自由学園中学校が 2 大会ぶり 4 度目の優勝～

JCO ジュニアオリンピックカップ大会／第 12 回全日本中学校チアリーディング選手権大会は、1 月 25 日の大会 2 日目に自由演技競技が行われ、箕面自由学園中学校・A（大阪府）が第 10 回大会以来、2 大会ぶり 4 度目の優勝を飾った。準優勝は梅花中学校（大阪府）、第 3 位は目白研心中学校・A（東京都）で、前回大会優勝の堺チアリーディングクラブ（大阪府）は 4 位だった。

箕面自由学園中学校・A はノームスの演技で 243.5 点を記録し、準優勝の梅花中学校とは 0.5 点差。箕面自由学園は、昨年 8 月の JAPAN CUP 日本選手権のデビジョン 1 中学校部門で準優勝、日本一に向けて原点回帰で地道な練習を繰り返してきた。

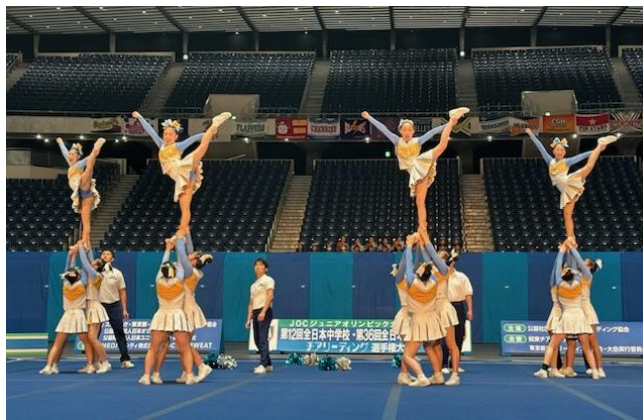
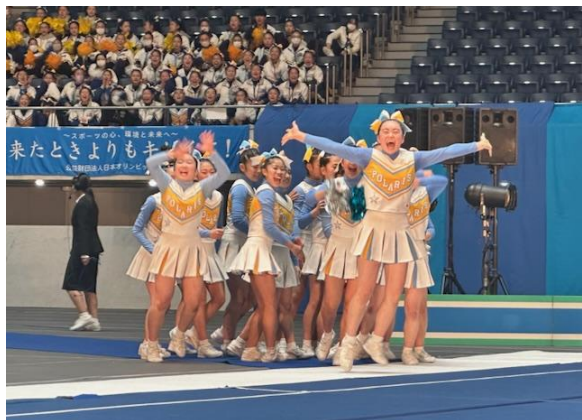
箕面自由学園中学校・A のコーチは「ジャパンカップまではスタントの抜けや肩のハメ具合の部分で、完成度がまだまだでした。まずは、そこからやろう！と始めました。スタントの乗り込みの姿勢から一気にリバティに上げた時、ベースの肩が正しい位置にハマっていないと高さも出ないですし、美しさが失われてしまう。ずっと課題だったことを克服したからこそ、ここまで来ることができました」と明かした。

中学 3 年で、ここまでチームを引っ張ってきたキャプテンは「完璧な演技ができて、みんな喜びながら泣いていました。両親や先生方に感謝の思いを伝えるために日本一を目標にしてきて、それが達成できたことが嬉しいです。この日本一になった経験を生かして、高校でもチームに貢献できるように頑張りたいです」と笑顔で話していた。



梅花中学校は、わずか 0.5 点差で第 6 回大会以来 6 大会ぶりの「中学日本一」を逃した。チームを率いる監督は「内容はすごく良かったです。連続技や大技をいかにキレイに止めて見せることができるか、そこにこだわってきました。（優勝に）届かなかった 0.5 点は、タンブリングやジャンプなど細かいところのツメの部分かなと思います。3 年全員が（梅花）高校でもチアを続けるので、高校でこの悔しさを晴らして欲しい」と語った。

目白研心中学校・Aも、ノームスの演技で会場を沸かせた。パートナースタッツのツイストアップ技を昨夏のジャパンカップから1台増やして4台披露。指導にあたっているコーチは「キックダブルなど、最初のバスケット トスでもジャパンカップよりもキレイさを意識してきました」という。昨夏の7位から一気にトップ3に食い込み、コーチたちは「いい成績を頂けて大満足。（箕面自由学園中学、梅花中学に） ちょっと近づけたかな」と声をそろえた。



一方で、自由演技競技ユース部門は梅花中学校が制した。マットに立った16人のうち8人が1年生で、監督は「初心者ばかりのメンバーで、1年生が多いんです。全く何もできないところから1年かけて、やってきました。この優勝が自信になってくれたら嬉しいです」と選手を称えた。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.